大泉あさひで通信

発行: 社会福祉法人 大泉旭出学園 旭出生産福祉園 〒178-0063 東京都練馬区東大泉 7-21-32 Tel 03-3925-6166 Fax 03-3925-6169 HP http://www.asahide.or.jp/



一障害者」という用語問題と 「障害」の「予防」につい て

旭出生産福祉園園長

|障害||と「障害者.

上で支障となるものごとは単にそれだけではないと きたすことになりますが、人が普通に生活をしていく さまたげとなるものごとを意味する言葉です。 人の心身機能の損傷や不全(不調)は生活に支障を 「障害」とは人の生活上の、じゃま、さしさわり、

のと同じだと思います。 は病気になった人を「病人」「患者」「罹患者」という 味で「障害者」と表現(表記)するのであれば、それ な障壁は全て「障害」です。大きく挙げるとすれば、 害を持っている人」または「障害のある人」という意 情報的障壁、意識的障壁、などが考えられます。こう いうことが理解されるようになりました。 した障壁を継続的に回避できない状態にある人を「障 つまり人の日常的、社会的な生活の妨げとなるよう 物理的障壁、 制度的障壁、文化的障壁、

を用いて「障碍者」と表記することや「障がい者」と ないかというようなことから、「害」の字の替わりに、 という表記は、害のある虫を害虫と呼ぶのと同じでは 表記することが提唱されています。 妨げるという意味の「礙(がい)」の俗字である「碍」 しかし「障害」という言葉に「者」を付けた「障害者」

ものですが、2020年の東京パラリンピックを見据 への追加の是非は「常用漢字の選定基準に関わる問題! 員会決議に対し、文化審議会国語分科会は、常用漢字 討を政府に求める決議をしました。この衆参両院の委 え、障害者のスポーツ参加を促進することなどを理由 院文教科学委員会が、「碍」を常用漢字表に追加する検 に、衆院文部科学委員会が昨年の5月に、6月には参 法律や公用文で使う漢字は、常用漢字表に基づく 相応の審議が必要だと結論づける一方で、

> ことです。(平成30年11月23日 朝日新聞) 味で使われており、明確な使い分けはなかったが、戦後 用いることが可能との考え方を示しました。文化庁に の余地があるとし、現状でも「障害」と異なる表記を 用漢字表は「目安」で個々の事情に応じて適切な考慮 の当用漢字表やその後の常用漢字表に害の字が入り、 よると、「障害」と「障碍(礙)」は明治期から同じ意 「障碍(礙)」という表記は少なくなっていったという

ら「障害」の文字を使わずに「障碍」と表記する方針こうした見解を受け、兵庫県宝塚市は今年の4月か を決めたそうです。

とです。(平成31年2月5日 朝日新聞) 用し、当面は文字にルビをふって周知を図るというこ の判断で表記を変えられる公文書や広報誌などに適 したそうで、今後は、法律や固有名詞などを除き、市 ということです。市内の障害者の関係団体の意見を聞 いた結果、おおむね異議はなく、表記を改めることに いうのが理由で、公的に「碍」を使う自治体は全国初 イメージがあり、障害者の中に不快に思う人がいると 宝塚市によると、災害や害悪など「害」に否定的な

ることも大切だと思います。 ることにこだわりすぎて、なぜその言葉を必要とする る言葉は大切ですが、用語問題においては言葉を改め かという肝心な物事の本質を見失わないようにす 意味不明や不適切な言葉は困るわけで、日々使用す

 \mathcal{O}

「障害」の「予防」とは

拠もなければ、予防するという意味もその合理性もな とが可能だという根拠があるはずです。何の理由も根 前もって防ぐほうがよいという確かな理由と防ぐこ いことになります。 「予防」とは、あらかじめ防ぐということですから、

う思いは障害をもつ人ももたない人も同じはずです。 活環境を築こうとする(している)わけですが、そこ それゆえに、人はよりよく生きるために都合のよい生 ヤなことは避けたい、充実した生活を送りたい、とい よりよく生きたい、気分よく生活したい、苦痛やイ

> ろの問題や課題があると思います。 に病気や障害をどのように受け止めるかというとこ

あり、 そうした人の生き方の追究が大切なことになり、そこ 衰え、心身に変調をきたすはずです。そうだとすれば、 ことができたとしても、高齢になるにつれ誰もが必ず と思います。例えば、病気もせずに健康な生活を送る人はおそらく病気や障害と無縁では生きられない に病気や障害に対する理解や配慮を要する必然性が 障害や病気を予防するという意味があるはずで

予防に関する調査及び研究を促進しなければならな い」と定めています。 障害者基本法は、「障害の原因となる疾病及びその

「第三次予防」という考え方があります。 障害の予防については、「第一次予防」「第二次予防

障害の発生そのものの予防をねらいとします。 第一次予防とは、障害が発生する前段階での予防で、

要となります。 法的、社会的、心理的条件等を駆使した取り組みが重 みならず、高度に優れた人間の英知を結集した倫理的、 かねない問題が含まれます。そのため医療的なことの しかしそこには人為的な生命の操作や選別になり

の発生予防です。 第二次予防とは、発生した障害の軽減や二次的障害

きいはずです。 が重要となります。そこには単に医療のみではない療 握により、よりよい方向付けを含めた早期の取り組みしたがって早期発見による的確な障害内容等の把 育や、教育、福祉の専門性を発揮することの意義が大 したがって早期発見による的確な障害内容等の

せないための予防です。 第三次予防とは、生命や生活(人生)の質を後退さ

あらゆる分野の連携した取り組みが重要となります。 基盤整備や構築を目指す文化国家としての専門的な するかということと、誰もが暮らしやすい社会環境の それは障害をもつ人の生活権をいかに確保し保障

(日本の「教育と福祉」を考えるhttp://www.asai-hiroshi.jp/))







大洗方面

















奇台場



休暇村奥武蔵









6、7月に今年も旅行会が行われました。 宿泊は大洗方面へ行き、アクアワールド大洗水族館や、クアワールド大洗水族館や、日帰りはお台場・フジテレビ、休暇村奥武蔵と2回に分かれていきました。 明染みのキャラクターに会がお台場・フジテレビ、休暇村奥武蔵と2回に分かれていきました。 奥武蔵でのんびりと過ごされた方たちは、おいしいりされた方たちは、おいしいりと過ごされた方という特別な時間、旅行という特別な時間、がでしょうか?

(土屋)

時間等を迎えきした。

1974年に開設された旭出生産福祉園は今年45周年を迎えました。 今回はそんな園の様子を様々な年代の写真との比較で振り返ります。 懐かしいと感じる方も多いのではないでしょうか。







本館棟の南側には芝生がひろがっていました



元は入所の居室があった多目的棟



ドアの色が変わっていますね

意成意



ブロック製造量の違いが歴然



園内見取り図









自動販売機が設置されていました

以前は木工のみの建物でした

赤正德

力ポックの小鼓

あまりまだ変化は無いようです

芝生で本館方面へ繋がって居ました

(土屋)

今年度は食堂及び厨房の改修を行いました。

食堂に併設されていた配膳室をなくし、広々とした食堂となっています。また、 配膳車を導入したことにより、より温かい状態での食事提供が可能となりました。 今後もこの新しい食堂でたくさんの思い出ができることを楽しみにしています。

0000000 0000000



広くなった食堂で楽しく納涼会













たくさんのご来場

ありがとうございました

せんば太鼓のみなさんに お越しいただきました!!

今年もありがとうございます!!









迫力ある素晴らしい演奏をしていただきまし



お祭り広場に行なわれた 行ってきました。













で役事経たしは勤 る宜にが験がて25め僅廣 5 5月から入所部屋瀬健一郎です。屋瀬健一郎ですが一口のておりましたがめておりましたがめておりましたがの連続で、まだかって寮での仕事がって寮での仕事があるいですが一口のですがですが一口のですがあるいですがあるいですがいまだ。 親販売をしていた間、百貨店内のこれりましたが、 関 入 うに頑っが一日 所 まだまだ慣れの仕事は初め 部 に 張 でも 質れない。トント 務

のおいのしと長に

ト最ム

すくなて

郎





和 元 年 四 月 S 令 和 元 年 九 月末ま で 同

広報に記載されておりました、寄付を 頂いた方のお名前の一覧は、 ホームページに掲載するにあたり 伏せさせて頂きました。 ご了承ください。



み

な さ

ま

協か

力ら

にの

厚

<

御

礼

申

上 げ

ま

集 後

記 す

ご支援ご







大泉旭出学園の事業につきましてはご高配を賜り感謝、お礼申 ▶▶し上げます。設立45年を迎えた今年ではありますが、既に来る 設立50年に向けて事業展開を進めています。特色ある独自性を 発揮した事業展開とその充実を図っていくためには、経営基盤を固めていく必 要があります。さらに多くの方々に後援会の会員になっていただきたく、会員 の方々にはお知り合いなどにご紹介いただけたら幸いに存じます。

イ

イに

1=

い

より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

ル

ス

1= 基

は 本

ル

 \Box

Ι

ル

製

剤

に

ホま手ウの

生

ŧ

効

果 ア

あ

IJ

ま

す。

ح

あ ょ

IJ る

他

の

٦

ح

ひ

生

の

はが

対 感

策 染

の

な

یخ

を

経

路

す

染

で感

す 染

イ

ン ح

フ

ル る

ン

ザ 症

工感

遠

に

て

た

だ

き

た

い た 厚

لح

思

い

ま

厶

ジ

を

覧 ぜ

だ

き 労

日 働

 省

の





が

外 た 持 外 る 去 ょ を 身 る 詳近 出業 出 す 生 フ フ を養 労 な る ル 手 ル 4 く予 控 働省 摂 + エ た エ 洗 の 予 え取 防 ンめ ンい 抜 分 手 防 る 、 ⑤ の ح ザ ザ は 粋 な 洗 1= に 赤 に 有 ウチ 休 いは ま τ あ 指 1 限効 人 養 イ IJ す。 2 な と ③ 厶 混 ら な ル ワ 外 ま یح バ適 ず 方 ス み ク 出 体 接 法 を やラ度 チ 流 ジ 触 物 後 繁 の で に 水 ゃ あ 理 ス 湿 接 を つ の 飛 IJ い 度 的 石 手 街 の 参 沫 た 鹸 洗 取 照

保 ②

の

のれ